

ASCO 2010 に参加して

岐阜大学医学部附属病院

腫瘍外科

高橋孝夫

2010年6月4日から6月8日までシカゴで開催された ASCO 2010 に参加させていただきました。私は癌を専門にしているからには **surgical oncologist** として一度は ASCO に参加したいと以前から考えていましたので、ようやく念願が叶い、うれしく思っています。ASCO の印象ですが、とにかく“でかい”。会場は大きく、目的のセッションを聞きに行くにもどこにいったらいいのか、また **Oral session** のひとつの会場にはいったい何人の聴衆がいるのでしょうか、巨大スクリーンが3枚並び、それが3列ほど並んでいました。私が座った席では演者は遠く彼方で発表され、聴衆はその発表スライドが映し出されるスクリーンに釘付けになっているという状況でした。参加人種をみても、当然ではありますがいろいろな顔があり、世界中からたくさんの医師を含め医療関係者が参加しているのだろうなと予想できました。広い通路をすれ違うのがたいへんで、待ち合わせをしても見つけるのがとてもたいへんなほど、沢山の方々が参加されていました。

さて今回の発表内容ですが私は下部消化管を専門にしているため、**Gastrointestinal Cancer (Colorectal)** を中心で聴きました。全体的な印象としては分子標的薬の **negative data** が目立った感があります。いくつか、注目した演題を御紹介します。

3507, # 3508 stage III 結腸癌治療切除例における mFOLFOX6 ± セツキシマブによる術後補助化学療法 : Cooperative Group Trial NO 147 :

NO147 試験は stage III 結腸癌の術後補助化学療法として mFOLFOX6 にセツキシマブを併用した場合の有用性を検討することを目的とされた。KRAS 野生型での結果は3年 DFS について FOLFOX 単独群が 75.8%、セツキシマブ併用群は 72.3% で、セツキシマブ併用群で低下する傾向が認められた。Grade 3/4 の有害事象は FOLFOX 単独群に比べ、セツキシマブ併用群で高値であった。

もうひとつの KRAS 変異型の stage III 結腸癌の術後補助化学療法として mFOLFOX6 にセツキシマブを併用した場合の検討では3年 DFS は FOLFOX 単独群が 67.2%、セツキシマブ併用群は 64.2% で、セツキシマブ併用群で低下する傾向が認められ、3年 OS もセツキシマブ併用群で不良であった。これらの結果より stage III 結腸癌の術後補助化学療法として KRAS 野生型であっても mFOLFOX6 にセツキシマブを併用する有用性は認めなかった。KRAS 変異型ではセツキシマブを併用することでむしろ成績が低下するため使用してはならないと結論づけていた。

#3501 進行・再発結腸・直腸癌に対する 1st-line の XELOX+ベバシズマブ施行後におけるベバシズマブ維持療法の第 III 相試験：MACRO 試験：

進行再発結腸直腸癌に対する 1st-line の XELOX+ベバシズマブを 6 サイクル投与した後に、維持療法として XELOX+ベバシズマブを継続するか、ベバシズマブ単独を投与した場合の有効性と安全性を検討した第 III 相試験：MACRO 試験の結果が報告された。PFS 中央値は XELOX+ベバシズマブ群 10.4 ヶ月、ベバシズマブ単独群 9.7 ヶ月、OS はそれぞれ 23.4 ヶ月と 21.7 ヶ月であり、ベバシズマブ単独群の XELOX+ベバシズマブ群に対する非劣性は証明されなかった。

#LBA4007 進行再発胃癌に対する 1st-line としてのカペシタビン+シスプラチンとベバシズマブの併用療法の第 III 相試験 AVAGAST 試験：

進行再発胃癌に対し、化学療法に BEV を併用した場合の有効性と安全性を検討した。

カペシタビンあるいは 5FU+シスプラチン；XP に BEV を併用する群とプラセボを併用する群にランダム割り付けされた。PFS 中央値は XP+BEV 群は 6.7 ヶ月、XP+プラセボ群は 5.3 ヶ月と有意に延長したが、primary endpoint であった OS はそれぞれ 12.1 ヶ月と 10.1 ヶ月と統計学的有意に延長しなかった。

他にも注目した演題は多数あり、世界中の臨床試験の結果が明らかとされ、情報量がすごいなと感心させられました。また世界の中で日本人を意識でき、ASCO で日本人の oncologist とお知り合いになることができたことも私にとっては大きな財産です。短期海外派遣として ASCO 2010 に参加でき、たいへん有益な時を過ごすことができましたこと、JACCRO および関係者に深謝します。今回はこのような場所で是非発表したいものです。